



夢を応援する

とても強くなります。
会長 夢はかなうことばかりではありませんが、プロに向かって努力している、勉強している、そういう子どもたちが活力あるまちをつくるべく、私もお手伝いしています。日本を背負う人、世界で活躍する人だけではありません、自分ややりたいことをやっていると、そのためのフィールドがあるのなら、どの分野でもその子にとっては幸せなこと。そして、いつか自分の夢がそのまま仕事になるような素晴らしいことはないと思いません。

会長 手賀沼を囲んで、ラグビートップリーグのNECグリーンロケッツ、Jリーグの柏レイソル、野球の強い高校や駅伝が強い大学もある。我孫子はスポーツ

市長 私もお手伝いしています。日本を背負う人、世界で活躍する人だけではありません、自分ややりたいことをやっていると、そのためのフィールドがあるのなら、どの分野でもその子にとっては幸せなこと。そして、いつか自分の夢がそのまま仕事になるような素晴らしいことはないと思いません。

市長 学校だけではなく市内各地域で開催している懇談会、保育園や幼稚園、福祉施設、地域のイベントなど、時間が許す限り現場を見て、皆さんの声を聞きそして伝える。現場の声は、暮らしやすいまちづくりのために必要なことです。
会長 現場の声を直接聞き、私たちの声も直接伝えること。まさにそれは私も市長も一番大切にしなければならぬことですね。

大切なことを子どもに伝えるグリーンカード

会長 1993年にJリーグが開幕し、警告のイエロ



ードが開幕し、警告のイエロ

変革するとき声を聞く、そして伝える

市長 子どもたちと直接話をするのを大切にしていて、各学校に定期的に出向いています。子どもたちは率直に話してくれます。
会長 私も現場の人の生の声を聞くことがとても重要だと思っています。話が間接的に上がってくると原因の本質がみえなくなることがあります。直接話してわかることがたくさんある。私も、サッカーファミリータウンミーティングを開催し47都道府県の協会すべてを回っているところです。

市長 教育の現場や家庭に取り入れてもいいですね。
会長 家庭に1枚カードがあり、子どもが約束を守った、ご飯茶碗を配膳して洗った時など、良いことをした時に親がカードを見せてあげるようなものになればいいと思います。

あびこのまちと子どもたちへ

会長 我孫子市を離れて、あらためて我孫子の良さが分かりました。東京に近く自然と文化がある、子どもたちが遊べる環境がある。そして保育園にみんな入れる。このようなまちは、東京近辺では、ほとんどないと思います。そういう意味では、我孫子にお住まいの皆さんは、誇りを持って住んでいただければと思います。いつかまた自分も我孫子に戻りたいと思うくらい、素晴らしいまちです。

市長 今年、W杯を通して、我孫子、そして日本の子どもたちに夢を追い続けることの大切さ、頑張ることや応援することの大切さを伝えてほしいと思っています。日本代表の選手が世界で活躍することで、子どもたちに大きな勇気と元気を与え

てくれます。ぜひ日本代表には頑張ってもらい、子どもたちに夢を与え続けてほしい。そして、日本サッカー協会には、温かい支援と指導で、夢に向う子どもたちをこれまで以上に支えてもらえればと思っています。

私も、我孫子の自然と文化を大切に、住んでいる皆さんのたくさんの夢を、より応援できるまちにしていきたいと思っています。

子どもたちへ 世界の舞台で活躍する先輩

U-17サッカー日本代表 中村敬斗選手

我孫子市立高野山小学校・我孫子中学校卒業、現在高校2年生(17歳)

4歳からサッカーを始め、地域のクラブチームでプレー。平成27年U-15、28年U-16の日本代表として、AFC選手権(アジアサッカー連盟主催)など多くの国際試合に出場。29年に開催されたFIFA U-17W杯インド大会では、日本人最高の4得点を挙げ日本代表をベスト16に導く。得意なプレーはシュートとドリブル。

夢は、2020年の東京オリンピックで活躍すること。そしてイングランドプレミアリーグ「マンチェスター・ユナイテッド」でプレーすること。

後輩たちへメッセージ

小学生のころは、ドリブルとシュートが好きで自由にプレーしていました。型にはまらず、自分が「こうなりたい」とイメージしながら、自由にプレーすること。まずは個性を伸ばしてほしいと思います。



▲国際大会で活躍する中村敬斗選手(©JFA)

我孫子市は夢に向かってチャレンジする子どもたちを応援します!